

兵庫七福神をまわってみよう!!



左から弁財天、福祿寿、毘沙門天

兵庫区界隈は古くから七福神めぐりを楽しむ文化が根付いている。兵庫区内の七福神をめぐりながら、七福神の魅力について考えてみた。

七福神と聞いてまず思い付くのは、幸福を授かる神様という事だろうか。兵庫区南部にも古くから七福神が祀られているが、あるとき、歴史のある神社やお寺が集まり個々に受け持つ神様を決めたことで「兵庫七福神」という呼び名が誕生したのだ。柳原蛭子神社(西柳原町)に蛭子、柳原天神社(東柳原町)に布袋、和天神社(和田宮通)に弁財天、福海寺(西柳原町)に大黒天、能福寺(北逆瀬川町)に毘沙門天、真光寺(松原通)には福祿寿、葉仙寺(今出在家町)には寿老人が祀られている。七福神は日本古来の神様だと思っていたが、よく調べてみると必ずしもそうではない由来があることがわかった。七福神の二柱である弁財天からもそのことが分かる。弁財天の元は、仏教誕生の地であるインドの古代神話に登場するサラスバティ(水を持つもの)という神様で、海や池、川など水



左から蛭子、七福神、寿老人

のあるところに多く祀られている。弁財天を祀る和天神社がもともあった場所も「蛭子の森」と呼ばれる海岸沿いだったそうだ。また、能福寺に祀られている毘沙門天は軍神として有名な神様で、もともとヒンドゥー教では財宝の神として知られていたが、インドから中国を経て日本に伝わる頃には現在のような服装になり、強いイメージから軍神として知られるようになったそう。古くから庶民に親しまれてきた七福神だが、元から日本に祀られている神様ばかりではないことが分かった。

「兵庫七福神」という呼び名は誕生してから15、16年しかたつておらず、他の地域に比べると「七福神めぐり」としての歴史はまだ浅いが、気軽に歩いて回れる範囲に集まっていることが他にはない最大の魅力だ。また、神社だけでなくお寺に多く祀られていることも特徴だ。海と山を連続させる境内の造りにも目を向け、兵庫区の街を堪能しながらぶらりと「兵庫七福神」を回ってみてはいかがだろうか。

記事・写真 吉田愛州加



伝統の土俵を未来へ

夢野中学校(兵庫区鶴越町)には、神戸市立の中学校で唯一土俵がある。2013年4月、旧夢野小学校の敷地に新校舎が移転した際に、新たに作ったという。土俵がどのようにして作られたのか。その思いを学校関係者に聞いた。

移転が決まった直後には「旧校舎にある土俵をそのまま引越させるといふ案も出た」と話すのは、同中教頭の信原孝彦さん。だが、旧校舎の土俵を解体し、材料を運び、再び組み立てる作業は非常に困難なため、新しく建築することになったという。

しかし、土俵を一から作ることは簡単ではない。一般の建築

夢野中の新校舎

業者は土俵の建築経験がないからだ。そこで、夢野中学校OBで、王子土俵場で土俵を作った経験のある神戸市相撲協会理事の打出谷(うちでや)和夫さんに協力を求めた。そして、打出谷さんの監督のもと、市内の建築業者によって現在の土俵が完成した。

2013年3月25日に土俵開きが行われ、現在も相撲部の活動の場として大切にされている。

2013年の神戸市中学総体では、約50人が出場した個人戦で夢野中の相撲部員が新しい土俵での練習成果を発揮し見事優勝した。これからもこの伝統の土俵を受け継ぎ、未来の子供たちの財産となしてほしい。

記事・写真 寺内翔子

11年目を迎えるスマイルフェスタ!

中高生が企画する兵庫区青少年文化祭「スマイルフェスタ」が2月23日、神戸アートビレッジセンターで開かれた。その実行委員長としてイベントをまとめたのが神戸市立神港高校2年生の田中愛一朗ゼーさんだ。どのような想いで企画したのか、話を聞いた。

同フェスタは、青少年の持っている豊かな想像力や活力を発揮し地域社会を盛り上げるイベントで、今年で11回目を数える。バンド、ダンス、太鼓、三味線など12組、約150人が出演。前回参加した高校のダンス部は兵庫高校の生徒だけだったが、今回は市立神港高校のダンス部も新たに参加することになった。特に今年は例年にはない飲食屋台ブースを企画した。

田中さんが実行委員長になろうと思ったきっかけを聞くと「責任が大きい方がやりがいもあるし、絶対に良いイベントにできると思ったから」という答えが返ってきた。

また、「去年は先輩たちが自分

たちのステージを準備してくれた。今年は自分が後輩のステージを準備し、実行委員会をリードしていくために実行委員長になった」と伝統あるイベントの継承を進めてきた。「実行委員は高校のダンス部や軽音楽部に在籍している生徒が多く、色んな想いを持つメンバーをまとめるのが大変だった」とも。

同フェスタでは市立神港高校3名で構成される「ADAMAS」というバンドで出演したが、現在「44+」というインストゥルメンタルのバンドの活動にも力をいれている田中さん。音楽活動は、中学1年生の時にビートルズの曲を聴いたのがきっかけでベースを始め、それからギターを始めた。

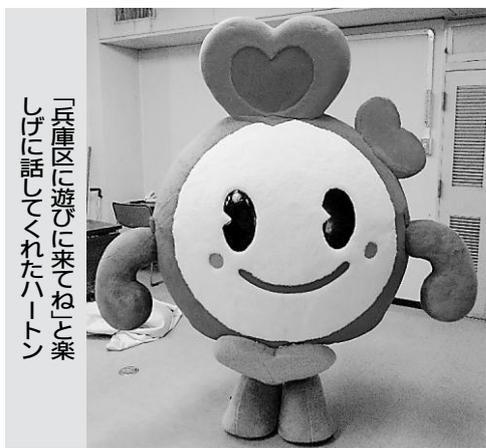


北野の神戸ウィンドバンドでも演奏される田中さん(右)のバンド「ADAMAS(アダマス)」

記事・写真 吉村 椎捺 武田麻奈加 児島 由香

より良いまちを創るために

～ハートンを兵庫区のシンボルに～



「兵庫区に遊びに来てね」と楽しげに話してくれたハートン

性格：優しく思いやりがある
 長所：頭にハートが生えてくるぐらい愛であふれている
 短所：転ぶと起き上がれない
 特技：タップダンス、ムーンウォーク
 形：兵庫区の頭文字「ひ」とやさしさと思いやりをイメージしたハートがモチーフ
 一言：ハートンに会いに兵庫区へ遊びに来てね!

記事・写真 柏本ゆかり

兵庫区では「やさしさ」と思いやりのまち兵庫」を区政の基本方針として掲げている。この区政を広く知ってもらおうと誕生したマスコットキャラクターが「ハートン」だ。兵庫区役所まちづくり課係長の浜西克元さんに、ハートンについてお話を聞いた。

「区外の方が、知っていてくれるとうれしいが、まずは区民の誰もが知っていて、兵庫区の自慢の一つと言ってもらえる存在になってほしい」と付け加えた。ハートンは誰もが親しみをもち、兵庫区の将来像がそのまま表れていると感じた。未来の兵庫区が、やさしく思いやりがあるひとで溢れてほしいと思った。

記事・写真 柏本ゆかり